

同窓会にどっぴり浸かって17年!

●私の会員スピーチ・その1

9月2日の春日部地区浦高会・会員スピーチでお話させていただいた概要をご報告します。なお、今回の資料は、6月9日に湘南浦高会総会にお招きいただき、その後の卓話で使った資料に若干手を加えたものです。



■同窓会にどっぴり浸かって17年

皆さん、こんばんは。本日の会員スピーチを任せられました香田でございます。本日のスピーチは、湘南浦高会の平井会長から今年の初めに「地域同窓会の中で活発に活動されている春日部地区浦高会のこれまでの歩みと、活動の原点をお聞かせいただきたい」とのオファーを受けまして、6月9日に湘南浦高会の皆様にお話しさせていただきました内容を多少リメイクしたものでございますことを最初にお断り申し上げます。

話の流れは、そうしたいきさつがありまして私の自己紹介から始まり、春日部地区浦高会設立の経緯、活動の状況、10年近く務めさせていただいた事務局の話などあれもこれもお話ししたいと思って資料を作りましたら19ページにも及んでしまいました。45分でお話を終わらす予定ですので駆け足になりましたらご容赦ください。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

平成30年度春日部地区浦高会・講話

- 日時:平成30年9月2日(日) 総会後 17時頃～ 45分間
- 会場:やまや新館
- 対象:春日部地区浦高会の皆様、同窓会本部 人数33名程度

□タイトル:同窓会にどっぴり浸かって17年

1. 自己紹介・人生15番勝負の13日目邁進中

◆自己紹介 【プロフィール】、【私の人生をご紹介】「人生十五番勝負」

2. 先輩たちの熱意で春日部地区浦高会が誕生

◆浦高創立百周年の動きを受けて ◆なぜ、春日部地区なのか? ◆設立総会

3. 三顧の礼で迎えられて

◆設立準備からの関わり ◆会報づくり ◆会報づくりの背景 ◆会報「喫茶去」の誕生 ◆17年間で「喫茶去」は286号を発行

4. やるからにはみんなが楽しい活動を

◆挨拶を深めた4年間 ◆春日部地区浦高会の転機は石井(中48回)会長から三輪(15回)会長へ ◆春日部に浦高同窓会あり ◆一泊旅行 ◆バス旅行 ◆家族同伴の総会 ◆お茶会も体験してもらって ◆母校浦高の今も体験 ※春日部地区浦高会の17年間の歩み

5. あっという間の17年、今日も浦高さん?

◆創立10周年記念事業 ⇒ 環境づくり 浦高百年の森に対して、緑守の社を ◆創立15周年記念事業 ⇒ 入づくり 呉学財団に対して、世界の音楽を ◆「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業はコンサートと出張指導 ◆2018年度は野田と浦高で開催 ◆次の20周年記念事業は

6. いつの間にか「浦高さん」

◆29年度の日程 ◆春日部地区浦高会 ◆浦高25期会 ◆全体同窓会常任理事 ◆会報「喫茶去」編集委員会 ◆ホームページ委員会

7. 私にとつての浦高同窓会とは

◆私にとって同窓会とは ⇒ 好縁社会の代表格 ◆私にとって地域同窓会とは ⇒ 会員の親睦、参加する意義があるもの

1. 自己紹介・人生15番勝負の13日目邁進中

さて、最初に自己紹介でございますが、私がちょうど50歳の時に、作家の嵐山光三郎さんのコラムに人生を5年ごとを1日の勝負として見立てて大相撲の十五番勝負に置き換えて考える「人生十五番勝負」というものを読み感動し、自分の50歳までを振り返ってみました。そして、その延長として、現在の63歳、13日目までを振り返ったものが、2ページから4ページ中段まででございます。

平成30年度 春日部地区浦高会 講話資料

1. 自己紹介・人生15番勝負の13日目邁進中

◆自己紹介 【プロフィール】

- ◇出生:1954年(昭和29年)12月、東京都品川区生まれ(同級生はゴジラ、ジャッキー・チェン)
- ◇学歴:川口市立飯塚小学校、埼玉大学附属中学校、埼玉県立浦和高等学校、東京理科大学工学部建築学科卒業(飯塚橋校舎)
- ◇仕事:1977年(昭和52年)4月に市内建設会社に就職、79年3月内閣退席、1979年4月に春日部市役所に建築技師として入所、建築課、都市整備課などを経て、企画課、1市3町(1市1町)合併協議会事務局で2年、市立病院事務部長、財務・総合政策・環境経済・都市整備・学校教育の部長、会計管理課で定年退職、2015年4月から再任用職員として環境センターの建築技師、18年4月春日部情報発信課の主任
- ◇家族:母、妻、娘、息子、孫4人
- ◇在所:品川区大崎で出生、川口市、蕨市、浦和市を経て、現在は春日部市在住
- ◇趣味:茶の湯(41年目)、雑誌読り(20年目)

【私の人生をご紹介】 ◆「人生十五番勝負」

私が50歳の時に、作家・嵐山光三郎さんのコラムに影響を受けて、大相撲の十五日間に人生を書き換えた「人生十五番勝負」という考え方で自分史を書きました。その後も55歳、60歳という節目に人生を振り返ってきました。嵐山さんがおっしゃるには「人が現役でいられるのを75歳とすると5年間で一勝負になる。それ以上生きればオマケで、俳句の字余りのようなものだ。5年間で一勝負とするのは、人の運、不運は確率によれば、いいことがひとつあれば、悪いことがおこり、それらを5年間で総括して、勝ち負けを決めるのである」と、そんな考えで私の過去にタイムスリップ。



★初日(0~5歳)、1954年11月3日、ゴジラが本土初上陸を果たした品川ハツ山橋から約1.6kmの品川区東大崎で12月生まれの私は、近所でも有名ないたずらっ子だったらしい。この辺りの記録が全くないので天真爛漫な生活と想像して勝ち星。

★二日目(6~10歳)は、満3歳で川口市に引っ越して、鋳物工場の台端で暮らし、砂の構型に流し込む砂で気管支炎を何度も起こし、ひ弱な小学校低学年を過ごし、体調不良で負け星。



★三日目(11~15歳)は、12歳で蕨市に引っ越し、市立中学の功主謙が中で中学受験を決意、増大附属中の受験では抽選で勝ちクジを引き当てて入学。多感な中学生生活を過ごし、万幸補欠ながらも常陸バスケット部に所属し、淡い初恋も経験して勝ち星。

★四日目(16~20歳)は、県立浦和高校に入学したものの、帰宅部で短い高校生活、熊鷹と劣等感にやつれていた時代。ただし、生運を積みたいと思った都市計画と出会い、東京理科大学工学部建築学科へ。大学生になり少し精神面では持ち直したものの、徹夜的设计製図と麻雀と悪の不健康生活で負け星。

5年間を1日として15番ですから、現役時代は75歳までということで、それ以上生きればオマケの人生とのこと。

初日は、ゴジラが誕生して日本本土に初上陸した1954年から始まります。ゴジラが初上陸したのが品川のハツ山橋、京浜急行の北品川駅の近く、御殿山の下です。そこに上陸したのが11月3日でしたので、もしこれが本当であれば、私の誕生はなかったかもしれません。そうなのです。私の生まれは、それから1ヶ月後で、出生地も品川区東大崎でハツ山橋からは1.6キロの距離しかありませんでした。5歳までは非常に天真爛漫というか、いたずらっ子だったので、自分で派はとんど記憶がないのですが、白星ですね。

二日目は、6歳~10歳までですが、3歳で品川から警察官だった父親の仕事の関係で、川口市飯塚

町に引っ越したいします。昭和 37 年に公開された「キューポラのある街」では、吉永小百合さんが主演の青春映画で美しく描かれていたようですが、当時の川口市は鋳物工場など工場だらけで、気管支炎に悩まされてひ弱な低学年を過ごしていました。そこで黒星。

三日目の 11 歳～15 歳は、小学校 6 年で蕨市に引っ越し、丸坊主になりたくない一心で勉強に打ち込み、埼玉大学附属中学校へと入学することができました。淡い初恋もあり、バスケットクラブで楽しい青春を謳歌した時代です。白星

四日目、ここからが浦高とのお付き合いになるのですが、4 月に弓道部に入部したのですが、毎日の 10 キロマラソンに付いていけず夏休みで挫折、その後、帰宅部となり、焦燥感と劣等感に悩んだ 3 年間でもありました。あのままであれば、「浦高卒」と誇らしくいうことはなかったのではないかなと思うほどです。しかし、そんな中でも、地理の新田先生との出会い、物理の飯島先生との出会いなどもあり、都市計画を一生のものと考えたのきっかけがありました。ここも黒星です。

3 ページの五日目以降は順調に推移し、大学を卒業し 2 年間の民間会社経験のあと、春日部市役所に入ることができました。23 歳では茶道をはじめましたので、もう 41 年目に入っています。

六日目で大失恋のあと、見合いで妻と知り合い、結婚、長女を授かり金星。

七日目では長男を授かり銀星でした。とたぶん女房に見られてもよいように書いています。(笑)

八日目は厄年前で突発性難聴などを煩い黒星。

その後は順調に市役所でも課長、部長などを務めるとともに、さまざまな市民活動をして今日に至っています。

九日目のところに、三楽庵雑記帳『夏炉冬扇』というものが出ておりますが、43 歳の誕生日から綴っている公開日記のことです。これまでの 20 年間で 4370 号を綴っており、これが春日部地区浦高学生会報『喫茶去』の原点になっています。

春日部地区浦高会との出会いは、十日目の 2001 年、47 歳になる年のことでした。

4 ページに入りまして、15 日目までの人生勝負では、現在のところ 12 日目まで取り進んで 9 勝 3 敗、13 日目も残り 1 年半ですがたぶん白星となれば、15 日間で 12 勝 3 負の「敢闘賞」を目指したいと思っています。

さらに人生 80 年、十六番目の勝負が取れるように気力、体力、それに技術力を磨いてまいりたいと思います。皆様には、これからも大所高所からご指導いただきますとともに、ご支援をいただければ幸いです。

平成 30 年度 春日部地区浦高会 講話資料

また訪れたいと思える「まちづくり」を進めていきたいと思えます。これは私一人ではできないのではなく、多くの仲間たちと進めていくものです。2016 年は「経営革新塾しよう会」の皆さんと一緒に決死隊一貫を受賞された三州製菓(株)の高之平伸一様を招いた『決死隊一貫受賞記念講演会』を開催して約 250 名の方々に決死隊一貫の経営理念と高之平様の実践をご講演いただきました。また、「春日部地区浦高会」設立 15 周年記念事業の『音楽の都ウィーンからの贈り物』ではウィーン・フォルハーモニー管弦楽団の廣香やバーデン市歌劇場のオペラ歌手を招いたコンサートも実現することができ、ますます仲間たちと楽しい世界を広げています。もちろん「仕事は楽しく！」ですが、今まで以上に「趣味は楽しく！」やっていきたいと思えます。

十五日目までの人生勝負では 12 勝 3 負の「敢闘賞」を目指したいと思えます。さらに人生 80 年、十六番目の勝負が取れるように気力、体力、それに技術力を磨いてまいりたいと思えます。皆様には、これからも大所高所からご指導いただきますとともに、ご支援をいただければ幸いです。



2. 先輩たちの熱意で春日部地区浦高会が誕生

◆ 浦高創立百周年の動きを契りて
春日部地区浦高会が誕生したのは、2001 年(平成 13 年) 9 月 1 日(日)のことでした。会場は、春日部市内の料亭。設立総会プログラムの中に経過が記されています。

経過報告

平成 7 年に、母校は百周年記念行事を盛大に挙行し、翌年、高橋一郎様が同窓会会長にご就任なされ、地域の賑和会の活性化を合い言葉に、同窓会が年々充実してまいりました。こうした中で、春日部地区においても、ぜひ、同窓会の設立をいうお話を、会長の高橋一郎様や浦和福和会会長の星野和典様等、複数のチャンネルを通じてたびたび要請をされておりました。機が熟せずにはおりました。その間、浦和福和会発足をはじめとして、浦和福和会、大宮浦高会、川口福和会、和光福和会等々。そして、平成 12 年久喜福和会の発足と各地域に同窓会が設立され、現在では 13 の地域同窓会と 3 つの職域同窓会が設立されております。本地域では、本年はじめて浦中 48 期の石井 治様の監理運営委員会があり、その中で、再度、星野様から要請があり、これを契機として、春日部地区にも同窓会を設立しようとの機運が高まりました。その結果、春日部地区浦高会への参加者 70 名、本日の設立総会参加者 36 名という状況になりました。春日部地区浦高会では、春日部市、庄和町、野田市、杉戸町、宮代町周辺に在在、出身、勤務されている同窓が、時に青春時代に想いを馳せ、人生を語り合おうという趣旨のもとに、さらに、地域の特性を活かし地域に開かれた特色ある同窓会にしていきたいと願います。(後略)

平成 30 年度 春日部地区浦高会 講話資料

★五日目(21~25 歳)は、22 歳で大学を卒業し、1 回目の就職は民間建設会社で現場と設計の仕事を経験。24 歳で 2 回目の就職が春日部市役所。23 歳から江戸千家、白流(はくりゅう)の茶道を始め、書道や俳句も学び、生涯目標ができて晴ち星。

★六日目(26~30 歳)は、片思いの? の彼女に誘われて半年後、最初の見合いで出会った妻と結婚(27 歳)。長女も生まれ(28 歳)で晴ち星。ここは金星だったかも(?)

★七日目(31~35 歳)は、31 歳で息子が生まれ、仕事でもやりかかった都市計画の道をまっしぐら、背中に背負ったやり負(伊勢)も大きく成長が多岐でもなかなか成果は上がらなかったものの、自分の中で晴ち星。この頃から、晴ち星の仲間と自主研究グループ「アテラ(古代ギリシアの伝説)」を立ち上げ、非営利にまちづくりを始める。

★八日目(36~40 歳)は、父のガン宣告、半年間の闘病を経て、そして 62 歳での死と悲しみを味わいました。子ども達の小学校入学と幼稚園入学と嬉しいこともありましたが、40 歳前には私自身が突発性難聴を患って入院。かなり辛い時期。

★九日目(41~45 歳)は、約 8 年半続いたアテラの仲間誌『暇目会報』100 号を綴ってグループを解散。個人で三楽庵雑記帳『夏炉冬扇』(友人たちへのメール公開日記)を綴り始めました。仕事では都市計画マスタープランを制作し、企画部門に異動。趣味の茶の湯では茶道を持ってようになり晴ち星。

★十日目(46~50 歳)は、仕事も充実し、皆さんに嫌がれるほどアフター 5 も充実して『夏炉冬扇』も 400 号まで綴り書き、2001 年には高校同窓会「春日部地区浦高会」が設立され事務等を仰せつかり、地域での人脈も広がり、家族も元気で晴ち星。

★十一日目(51~55 歳)は、仕事では市町村合併事務局長を担いで「新・春日部市」が誕生。市立病院事務部長、財務部長、総合政策部長とやり甲斐の大きい仕事を担当し、子ども達も社会人となり、夫婦の歩みもだんだん歩むようになり晴ち星。

★十二日目(56~60 歳)は、専任経済部、都市整備部、学校教育部でさまざまな仕事をさせてもらい、最後は会計管理課という役職に、建築技師でありながら黄色の公務員人生の締めくくりに相応しい職務を担当。何処でも「仕事は楽しく！」やらせてもらいました。趣味の茶の湯も 1 回 4 流派の先生が茶席を持つ「匠の上チャリティ茶会」もこれまでに 21 回参加させていただき、私個人の「三楽茶会」も 12 回開催することができました。日々の雑記『夏炉冬扇』は、15 年 3 月で 3000 号を迎えました。止めてしまおうのは簡単なのですが継続することの難しさから「趣味は楽しく！」と書いて続けてきた甲斐があります。さらに、この 3 年間で 2 人の子どもの嫁がそれぞれ結婚し、今は 4 人の孫に恵まれて育ジイを喜んで体験しています。高校と中学の同窓会で世話人も務めさせていただき、月 1 回は同窓生と会う日々です。埼玉を学ぶ「グループ 92」、春日部を元気にする「経営革新塾しよう会」と輪以外での仲間も増えて晴ち星。

★十三日目(61~現在 63 歳)は、本来であれば仕事をやる土壌を築かなければならぬのですが、もう少し春日部市に関わりたいという願いを再任用職員として働いています。私が身近でできるのは「まちづくり」、人々が住んで良かった、あるいは住んでみたい、街に訪れてよかった、

このような人生背景の中で、私が春日部地区浦高会の皆様と 17 年にわたりお付き合いさせていただき、石井さん、三輪さん、鳥井さん、根本会長、田村さんと多くの先輩たちに育てていただき、さらに多くの会員の皆様からさまざまな刺激とご支援をいただき今日がございます。感謝してもしきれないかもしれませんがね。 <つづく>